

平成26年度 特色ある公民館事業（二本松市：東和公民館）

とうわ地元学

『昭和の祝言(しゅうげん)』

と き：平成26年11月3日（月）

と ころ：木幡地区隠津島神社 参宿所

二本松市東和地区では、福島県過疎・中山間地域連携事業として平成25年度から「とうわ地元学」を実施しています。日々暮らしている身近な地域のよさを再発見することを目的として取り組んでいます。今回は、11月3日（月）に木幡地区の隠津島神社において『昭和の祝言(しゅうげん)』を再現しました。以下はその様子です。

祝言は、家の行事でもあり、地域の人との繋がりを確認する大切な行事として受け継がれてきました。祝いの席に振る舞われた料理には、山の恵みへの感謝と先人たちの知恵が詰まっており、それぞれには、五穀豊穡・子孫繁栄の願いが込められています。

今回は、あぶくま山系に伝えられている祝い膳の一部を参考に数名の方に聞き取りをした中から献立を再現しました。



「昭和の祝言」に参加した方々



隠津島神社での三三九度の儀式



隠津島神社参宿所にて祝宴



祝宴で出された「御祝い膳」

御祝い膳

- 一、膳皿（カレイの煮付け）
- 一、吸い物（鶏肉の吸い物）
- 一、坪（ぎくざく）
- 一、平皿（煮しめ）
- 一、小皿（青菜の白和え）
- 一、小皿（浸し豆・いか人参）
- 一、小皿（柚子大根）
- 一、小皿（無花果の甘露煮）
- 一、小皿（寒天・羽山林檜）
- 一、餅膳（あんこ・くるみ）

「とうわ地元学」は、今後も、地元の「食」をテーマにした取組を実施していきます。春の料理、夏の料理、保存食づくりなどに取り組めます。併せて、地元小学生によるフィールドワークも実施します。こうした取組を通じて、地元に残る季節の行事、消えた風習、素材の活かし方・使い方などについて話を聞き取り、記録として残していきます。平成27年度末には「とうわ地元学」の冊子を完成させ発行する予定です。